

里山コモンズクラブ通信 2017 夏号

みなみやま

Satoyama Commons Club News MINAMIYAMA

NPO
南山の
自然を
守り育てる会里山コモンズクラブ
通信「みなみやま」は
NPO 法人南山の自然
を守り育てる会の活
動案内です。<http://ina-mina.com/>

●お問い合わせ先

発行・責任者: 梁川貴司、編集・責任者: 小部正人

南山でのオオタカの生息調査



私達NPO「南山の自然を守り育てる会」(理事長 梁川貴司)は、南山に生息している希少野生動物種オオタカの生息状況調査に参加しています。いつ頃から調査しているのか、そのきっかけと今日に及ぶ経過を振り返ってみたいと思います。1986年(昭和61年)に菊池和美さんを代表として「未来の子供達に手渡そう緑の稲城を」をスローガンに「稲城の自然と子供を守る会」が結成されました。親子で南山を歩き楽しみ動植物を調べたりする中、オオタカがいるんだとその生息への関心が高まりました。2001年(平成13年)南山東部土地区画整理組合準備会が事業計画を発表しました。この時期「南山の自然を守る会」へ改称し2002年5月オオタカの営巣を発見、都の環境局へ届け出を行いました。組合もオオタカ検討会を発足させ合同調査がスタートしました。2006年(平成18年)4月組合設立が都から正式に認可されました。

1. 動植物の生息又は育成について適正な配慮を行うこと
2. 緑地の確保及び緑化に努めること

オオタカ調査では、開発者(土地区画整理組合)、専門家(R研究所スタッフ)、地元自然保護団体(南山の自然を守り育てる会)で継続的に調査を行うことが都の環境局から指示されました。それに添って現在まで合同調査を続けています。2008年(平成20年)2月、NPO非営利活動法人の認可を得てNPO「南山の自然を守り育てる会」として現在に至っています。

オオタカの営巣期2月～7月に合わせて、原則月2回区画整理の工事日と休工日を選んで営巣エリアを定点観測グループに分かれて調査しています。調査終了後に当日の状況を報告し合い、専門家グループと意見交換を行って、結果を原則2ヶ月毎に都環境局へ報告書を提出しています。また、オオタカ調査では日大の葉山先生にアドバイスを頂いています。都心から25kmの区画整理工事が進んでいる南山でオオタカが生息し、毎年新しい命を育てていることは素晴らしいことです。

<参考>

環境省によるとオオタカの個体数が1984年(昭和59年)約400羽だったが、各地での保護活動などで大規模開発の際には営巣地に配慮がなされるようになり、2008年(平成20年)の専門家の調査では関東地方と周辺だけでも5800羽までに増えていると報告されている。近時では全国規模で1万羽位と言われており、国内希少野生動物種の指定を解除することを検討中であると先頃報じられた。指定が解除されても鳥獣保護法による捕獲禁止は続くのだが…。(小柳)

トウキョウサンショウウオの年月



トウキョウサンショウウオの幼生が、人工池で成体となり上陸を始めた。両生類であるサンショウウオは、産卵場所や幼生の鰓呼吸の為、浅く綺麗な水のある環境が欠かせない。また変態して、肺呼吸を身につけた成体として上陸した後は、餌場や隠れ場所、そして湿った環境のある樹林が必要だ。近年の開発などにより、関東でもそうした生息地を次々失い、今では貴重な存在となった。

思えば、この南山のある谷戸で、サンショウウオが自生していた湧水が確認されたのは15年以上前。その谷戸が砂地の急傾斜地の為に崩落の危険があり、開発工事で埋め立てられると聞いて、「南山の自

然を守る会」として何とかできないかと皆で考えた。しかし、開発側である区画整理組合との何年にもわたる議論の結果、工事なしに安全を確保する事は困難との結論に達し、苦渋の決断で工事を受け入れた。

その補償策として、緑地の保存が決まっていた自然公園区域に、樹脂製の人工池を作り卵のう移植などの保護活動が始められた。「守る会」としても、組合から依頼された環境コンサルタントと一緒に、調査活動などできる事でサポートした。移植4年目あたりから、仮設池で育ったサンショウウオの個体が親となり産卵を始めた。その後も毎年産卵が続き、生まれた子どもが成長して上陸を続けている。

今(2017)年の春に、原生息地は工事の為に消滅した。その為、この自然公園の仮設池が残されたサンショウウオの産卵・成育できる、南山唯一の場所となった。

ただし、今後のサンショウウオと自然公園の将来については、まだ未確定な点が多い。現在は組合による給水車から水が送られている仮設池だが、もし人の手が入らなくなれば水は枯れてしまう。できれば自然に繁殖できるような環境を用意すべきだが、水が溜まりにくい土質で地下水位も低い等の為に困難となっている。どのようにするべきか、まだこれから考えねばならない。(桜井)



卵のうと成体



若い幼生



成長した幼生

雑記帳

今から30年も前のことである。当時7歳だった娘から職場に電話があった。「へびに咬まれた。ちくつとしただけだったよ。また遊びに行つてくる。」と。驚いてすぐ家に帰り娘をつかまえ病院に連れて行った。事情を聞くと、仲良し3人組と田んぼの畔道で遊んでしたところ「赤と茶色と黒のへびが足にぐるぐる巻きついてがぶつと咬まれた。」という。縦5センチ、横3センチ位の楕円形の歯形が足に残っていた。どうもヤマカガシらしい。本来このへびはおとなしい性格で自分からは攻撃しないという。ヤマカガシには毒はないと言われているが近年、奥歯に喉の奥のほうにむかって逆向きに毒牙があることがわかっていて。医者には「容体が急変したらすぐに日赤病院に救急搬送しましょう。」と言われた。幸い無事だったが現在でもヤマカガシの血清は特別なところにはかないという。後にこの話を聞いた母から「○○ちゃん、へびに食われたんだって。」と電話があった。

食われたのではなく、咬まれたのです。(木場)



ヤマカガシ
出典: ウィキメディア・コモンズより

新会員の仲間募集

里山保全活動やおオタカ、サンショウウオの希少種調査など、会員として一緒に活動しませんか？

場所: 稲城市城山体験学習館 学習室 毎月第1日曜日 13時から運営会
 入会申込先: NPO南山の自然を守り育てる会
 事務局: 梁川(やながわ)携帯090-6658-7611
 メールアドレス minamiyama@gmail.plala.or.jp

会報記事提供のお願い

普段、何かと忙しくて会活動にあまり参画できない!! でも少しは会に貢献したい!! そんな会員の方はおられませんか? 私たちの会報を皆さんの力でもっと充実させませんか? 何でも結構ですので、記事の提供をお待ちしています^^ 広報担当 小部